



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (11月17~18日)

1. イラン産原油に関するスイス政府の発言 (18日付イラン・ニュース紙)

スイス政府は、スイスに拠点を置くイラン産原油取引子会社の取引状況の報告義務の対象を拡大する予定はないと強調している。

2. イラン・パキスタン・ガスパイプラインの建設 (18日付テヘラン・タイムズ紙)

イラン・パキスタン・ガスパイプラインの建設に当たり、イラン側は5億米ドルの融資をパキスタンに対して行うことを検討しており、次週にアフマディーネジャード大統領は、パキスタンを訪問する予定である。

3. 医薬品・基本食品などの輸入関税の削減措置 (18日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

工業省のホダーイエー輸出入規制担当次長は、ランク1および2(注: 医薬品、基本食料など)に該当する輸入関税には削減措置を講ずる予定であると述べた。

4. 輸入禁止品目からの家電の除外 (18日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

イラン家電協会部長は、今週中ごろまでに、家電が輸入禁止品目から外れる見通しであると述べた。

5. 予算に関する商工鉱業会議所副会頭の発言 (17日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

来年[イラン暦1392年(2013年3月21日~2014年3月20日)]の予算編成において、1ドル=2万リヤルとする政府の決定は、政府を利するだけで、民間企業に対しては十分な措置ではないと、イラン商工鉱業会議所のサーデギー副会頭が述べた。

6. 米軍によるイラン侵攻が世界経済に与えるコスト (17日付ケイハーン・インターナショナル紙)

全米科学者協会(FAS)は、米軍がイランに侵攻した場合に世界経済に与えるコストは最初の3カ月間で2兆米ドルであり、最大3兆米ドルに達すると分析している。

7. 外貨価格に関する経済・財務大臣の発言 (18日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

シャムソッディーン・ホセイニー経済・財務大臣は、為替センターの取扱高が拡大するにつれ、市中為替価格と為替センターで提供される外貨価格は近づくことになると強調した[注: 11月18日現在、為替センターにおける非参照レートは1米ドル=24,885リヤル、市中両替商価格は1米ドル=28,500リヤルであり(市中両替商価格はリヤル高で推移)、両価格の差は縮まりつつある]。